# S部門

（肢体不自由教育部門）

# 文字・言語の獲得前の教材

# 教材ガイド

平成２７年度作成

東京都立鹿本学園

目　次


• ３面校歌歌詞ボード

• いちごケーキを作りましょう

• スイミー

• ぞうくんのさんぽ

• たてよこウォール

• ビー玉を落とそう

• ぺったん人形

• マトリクス

• 雨降り水族館

• 延滞学習の教材

• 課題いろいろマッチング箱

• 巨大絵本　ポッケのたんぽぽサラダ

• 紙芝居台

• 首が伸びる妖怪　三つ目

• 二つの音付きスライディングボックス

# 3面校歌歌詞ボード（A4版）
## ～歌詞の意味を豊かにイメージしよう！～

## 対象児童・生徒

・表情、発声、肩をゆらしての意 思表示ができる。
・儀式的行事中の校歌を意識できる。
・校歌の曲調を楽しみ、歌詞にも興味・関心がある。

S訪　小５

自立活動を主とする　　教育課程

・御家庭で新しい校歌をとても大切に考えてくださっている。儀式的行事には、歌詞カードや学校要覧を見せながらCDも用いて校歌を歌ってきた。スクーリングで目にしたオープンライブラリーなどの施設、自身の学習風景や先生・友達の写真からイメージ豊かに校歌を歌えるように工夫した。折りたたんで1番ずつ呈示することもできる。ボードはスチレン板、紙、マグネットシートで出来ていて軽量である。枕元に置くため、安全に配慮している。コの字になるので、楽器・ｉＰａｄでの伴奏も可能である。

## ねらい

・歌詞が3番あることを知り、写真カードからそれぞれの内容をイメージする。
・聴覚・視覚の良さを生かして校歌を歌う（発声する）。

## 教材の使い方（指導方法）

①ボードと写真カード、CDを準備する。

②ベッドサイドにボードをコの字に開く。

③歌詞の構成「学び」「絆」「自分の道」に関連する写真カードを呈示する。CDをかけて歌う。

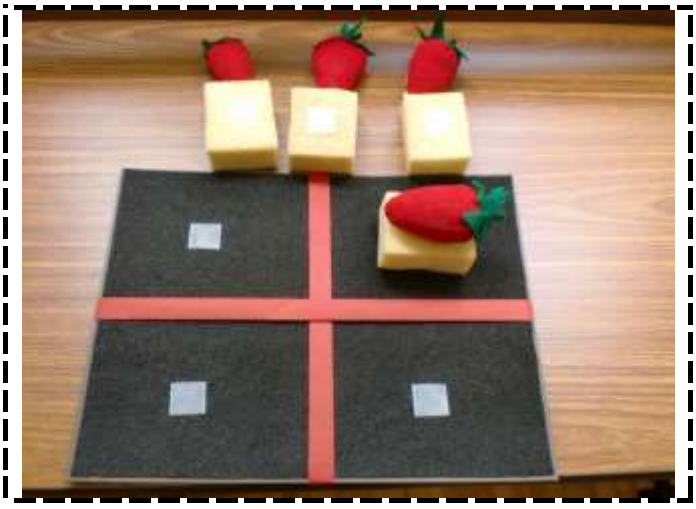
# いちごケーキをつくりましょう
## ～見本をヒントに同じ形をつくろう～

### 対象児童・生徒

・異なった二つの物の違いを理解し弁別ができる児童。
・１対１対応ができる児童。
・空間の概念がある程度形成されていて上下の関係がわかる児童。

S　小３　A学習グループ

自立活動を主とする　教育課程



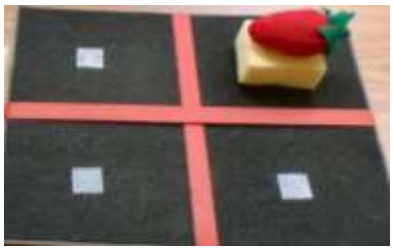
・ボードは黒に赤のラインで四分割し、はっきりさせることで見やすくしている。　・各パーツはマジックテープで固定させるようにしている。　・スポンジには両面にマジックテープを貼り付け、ボードとイチゴを固定できるようにしている。
（ボードは、厚紙とフェルトに似た工作紙を貼り合わせて作ってある。スポンジは浴槽洗い用スポンジを適当な大きさにカットしている。イチゴはフェルトで作ってある。）

### ねらい

・見本に注目することができる。
・２種類のパーツを見比べて、同じものを集めることができる。
・見本を手立てとし、２種類の異なるものを組み合わせて形を完成することができる。

### 教材の使い方（指導方法）

**スポンジとイチゴの仲間分けをし、ケーキを構成してからボードに完成させるやり方。**
①見本を見せて、スポンジとイチゴのそれぞれの形や色の違いに注目させる。
②イチゴとスポンジの形や色の違いに気付かせ、同じ物同士を集めさせる。
③各パーツを組み合わせてイチゴのショートケーキを構成させる。
④ケーキを４分割させたスペースの中に収めたら完成。「やった、できたね！」とほめる。
≪先にスポンジを全部配置し、その上にイチゴを乗せて完成させるやり方でもよい。活動に馴染んでくれば、見本がなくても自分なりのやり方で完成させることができるようになる。≫



# 表題　スイミー
## ～物語への興味・関心を広げる～

### 対象児童・生徒

物語に興味があるけれど、本だと集中力にかけてしまう児童生徒に、物語の楽しさを伝えるために作りました。

S　中３　A学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

### ねらい

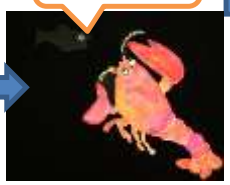
物語に興味を持つ。
物語の世界観を感じながら、自らパネルを操作してみる。

スイミーが一人ぼっちになって海をさまよう場面は、ブラックシアターを使って、スイミーの寂しさと、海の中の生き物の生き生きしている様子を表現しました。場面が変わるので興味が持ちやすいのと、視覚的に弱い生徒については見やすくなり、興味を持ちやすかったと思います

### 教材の使い方（指導方法）

マグロが弾丸みたいに

くら



いせえび

さかなた

うなぎ

いそぎんちゃく

わかめの

ぼくが目になろ

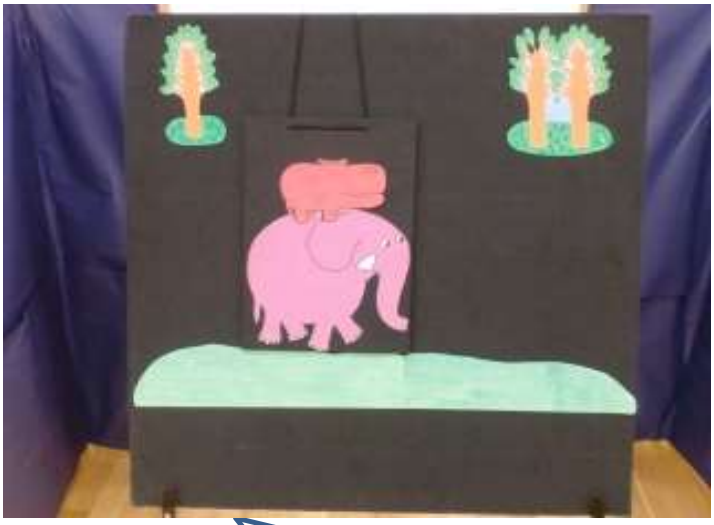
# ぞうくんのさんぽ
## ～見る力を育てる～

### 対象児童・生徒

・見る力を育てたい児童に向けた教材です。

S　小２　A①学習グループ

自立活動を主とする　教育課程



・見ることが苦手な児童には、小さいパネルを児童一人一人の見やすい位置に提示できるようにした。

・「ぞうくんのさんぽ」の歌を歌いながら見せることで、「見る」きっかけづくりをした。

### ねらい

・近くにきたパネルを注視したり、追視したりする。

・少し離れた教材にも注目する。

### 教材の使い方（指導方法）

○「ぞうくんのさんぽ」のパネルシアターを行います。

・登場する動物は、大きなパネルに貼る前に、話の流れに沿って小さいパネルに貼り、一つずつ丁寧に提示する。
（その際、児童一人一人のところを回る。）

・動物に合った足音で登場させ、「見る」きっかけをつくる。
（ぞうくん：ドシンドシン　かばくん：ベタベタ　わにくん：ノシノシ　かめくん：トコトコ）

# たてよこウォール
## ～いろんな形を抜き差ししよう～

### 対象児童・生徒

◎上肢の筋力が弱く、軽いものを持ち上げる練習をしている生徒。
◎図形の形、色、大きさの分別を課題とし、空間把握（上下左右）の認識に取り組んでいる生徒

S　高１　A学習グループ

自立活動を主とする　形の分別

### ねらい

色や形の異なるオブジェを分別し、取り外したり、差し込んだりできるようにする

・合板にドリルで穴をあけ、丸棒を差し込み、木工ボンドで接着しました。
・図形は発泡スチロールを加工したもの、カラー紙粘土で成形したものを三色で、円柱、球、直方体で作りました。

### 教材の使い方（指導方法）

・生徒のカットテーブル上に板を乗せ、初めは低い位置にオブジェを取り付ける。生徒が、指示したオブジェを分別し、取り外せるようになったら、次第に上の位置にオブジェを取り付け、手の位置を上げなければとれないようにしていく。（本人にとっては難しくなる）
・同時に、取り外したオブジェを「下にはめて」「黄色を上に」などと指示をする。
・次第に慣れてきたら、板の上にひらがなの下地シートを取り付け、文字の学習にも使用する。

# ビー玉を落とそう
## ～手で押して落とそう～

### 対象児童・生徒

１年生で、机上での学習にも少しずつ見通しがもてるようになってきました。大人の声や音に気付いて視線を向けたり、笑顔を見せる児童です。物を見る事や、手を使うことを課題に取り組んでいます。緊張が入りやすく意図的に手を使ったり、視線を向けることは難しいですが、音がしたことに気付いて取り組んでいます。

S　小１　学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

### ねらい

・手で押すことを意識する。
・グロッケンの音に気付いて、自分で音を出せたことがわかる。
・自分で手を動かそうとする。

・音の変化があるグロッケンを中に入れることで「あれ？」という音への気付きにつながりやすかった。
・手を教材の上に置き、本人が少しでも力を入れたら落ちるようにした。落ちやすいよう、ビー玉やゴルフボール、ゴムのスーパーボール等をためしたが、一番大きめのビー玉が良かった。
・昨年、宮城先生からアドバイスを受けて作ってみました。

### 教材の使い方（指導方法）

①教材を見せ、落とすビー玉もしっかり見せる。

②実際にやっている様子を、しっかり見せる。「３，２、１」といって落と音を聞かせる。

③使う方の手をタッピングして伝える。

④教材の上に手を置く。

⑤落として音に気付いた様子が見られたら「できたね」と掛け声をかける。

⑥両手をタッピングしながらほめる。

# ぺったん人形
## ～みる・きく力を育てる～

## 対象児童・生徒

・提示された対象を注目させていくには、言葉かけや歌いかけ、または対象物をゆっくり動かしていくなどの特別の手立てが必要な児童・生徒。
・身体の実態としては、まひのため、上肢下肢を意図的に動かしていくことが難しい児童生徒（その子どもの実態に応じて、働きかけていくので、あまり身体の実態を限定しない。）

S　小１　学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

## ねらい

・人形が動く様子をみて、主人公の気持ちの変化を感じ取る。
・登場人物（動物）の台詞の声色の違いや、劇中歌のテンポや擬音の違いの面白さを感じ取る。
・教員からの働きかけから、自分からも発声や身体を動かす、腕・手を動かすなど自分から気持ちを表現する。

プークの保育実践講座に出たので、すでに、フェルトに人形の型が縫い合わせてあった。あと、下書き用の型紙があった。
自分の作りたい動物の型に切ったら、あとは、貼れるフェルトで顔のパーツやリボンなどの飾りを切って貼る。まつげなどの細かいパーツは、ボンドかセメダインで貼ることが必要。あと、白いウレタンを顔型よりやや小さく切って人形の顔の内部に入れる。すると顔の部分が立体的になる。

## 教材の使い方（指導方法）

国語・算数の授業のみならず、特別活動、生活単元など、また普段の様々な学級指導の場面で導入に指導できる。
人形の動かし方では、あやつり人形などと同様の留意点がある。（人形劇団プーク講座より）
〇舞台がある時は、ひじを伸ばさないで、９０度ひじを直角に立てる。
〇舞台からひじの部分は見せない（生ひじ？は見せない）。腕に日焼け防止カバー（黒）や黒ストッキングの足先を切ったもの、を着ける。

**〇正面を見せて、しっかり登場させる。→そういうことで、観客が想像できる。**

※そのために、人形の後ろにいて後ろで見た感覚をつかむ。観客へ人形の視線が向いているかどうか、いつも注意する。こうやった時はこう見えるんだなという感覚をつかんでおく。これは練習しかない。時々他の教員に観客になってもらってアドバイスしてもらってもよい。
※動いていくと、どうしても正面を見せずに、横になって演技しがち。注意！
※観客（児童生徒）がその動きと台詞でどのように感じるか、想像していくかをいつも考えながら演じていくこと。
〇ペッタン人形のよさは、舞台がなくても児童生徒のすぐ前に向きあってお話しができること。その特性を生かしたい。

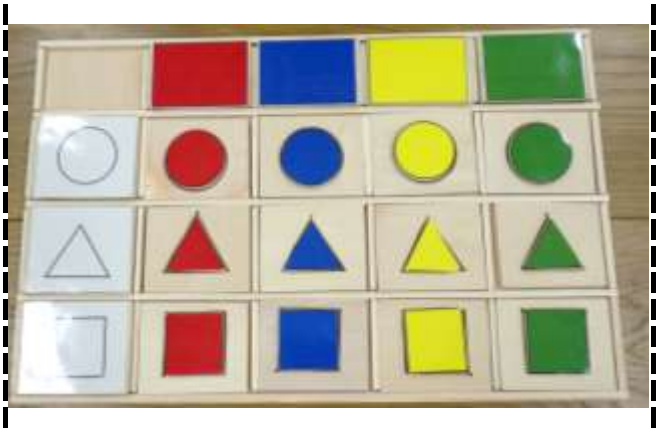
# ～色の分類、形の分類ができる（マトリックス）～

## 対象児童・生徒

・基礎学習が終わり、文字学習に入る児童を対象としています。
・太田ステージⅢ－1以上
・色の分類と形の分類ができる。
・同じの概念が分かる。（絵カード同士）

S　小３　A学習グループ

自立活動を主とする　教育課程



## ねらい

・色の分類と形の分類ができ、マッチングができる。
・角が多くある形を正しく見分けることができる。
・形と色の縦軸と横軸を見て、正しく入れることができる。

・一列ずつ取り組むことができるように、枠を付け取り外しができるようにした。
・マトリックスの導入のため、枠取りがあり、さらに形をはめられるようにした。
・角を正しく見分けることを目標としているため、他にも六角形や星形を用意した。
・最終目標は、表札のみで名詞でも行うことであるが、最初は色と形で学習をする。表札を張り替えることで、いろいろ

## 教材の使い方（指導方法）

①最初は、表札が入る枠に、同じ形と色の下敷きの上に一緒に置く。

↓

②マトリックスの縦軸を学習する。その際、色の分類は1種類の「赤」から始める。

↓

③その後、横軸の「青」「黄色」「緑」とはめていく。

↓

④形をはめていく際に、縦軸や横軸をポインティングして確認して入れていくようにする。

↓

⑤一緒に学習するのが終わったら、「赤」から一列ずつ取り組む。

↓

⑥順番に「青」「黄色」「緑」をはめていく。

↓

⑦縦軸に六角形や星形を入れて角がある形を多く取り入れて取り組む。

# 雨降り水族館
## ～雨の雰囲気を感じよう～

### 対象児童・生徒

・視覚的に見ることが難しい児童・生徒
・環境把握が難しい児童・生徒

S　　小2　重度・重複学級

### ねらい

・雨の雰囲気を感じ、リラックスする。
・動くものに興味をもち、視線を向ける。

### 教材の使い方（指導方法）

・歌、音楽に合わせて、傘を動かす。
・前から見せて回したり、傘の中に入って雨降りの雰囲気を感じる。

### ～ここがポイント！～

・傘の先は危ないので、回すときには十分に注意する。
・傘はゆっくり動かすようにすると、メッキテープがゆらゆらと動いてより注視しやすくなります。

# 延滞学習の教材（箱）
## ～さわってたたいて　中身を確認～

## 対象児童・生徒

目の前の物に手を伸ばすことができるが、その行動を確実なものにするのが課題の児童

S小６　　A学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

作り方
①木で枠をとり、延滞の箱を作る。ただし前面と上面は、開けられるように蝶番で止める。
②前面と上面の接地面にスポンジあるいはばねを貼り（※接地面構面につけるようにする：たたくことで前面が開けられるように）置けるようにする。

## ねらい

延滞のねらいである、「視線による反応」で物の入っている箱を選ぶことに加えて、その箱、目の前のものに手を伸ばし、自分から物に関わることが確実にできるようにする。

## 教材の使い方（指導方法）

延滞の学習で、物の入っている箱を二つの中から選ぶ。
その後、選んだ箱を本人の前に出し、「たたいてみよう」と促す。
本人がたたくことにより、前面のふたが開く。開いて中身を確認し「できた！」と確認共有する。

# 課題いろいろマッチング箱
## ～内容はアイデア次第～

### 対象児童・生徒

・手指の操作性をさらに高める必要がある生徒.。
・教員の説明を見たり聞いたりして、簡単なやり方を理解して取り組むことができる生徒。

S　高３　学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

### ねらい

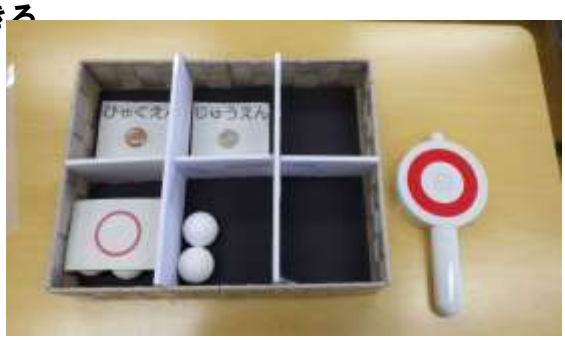
・視点を定めて取り組む。
・手指の操作性を維持・向上することができる。
・日常生活に身近な物の名前を覚える。

・長方形の箱を用意し、発泡スチロールで枠をつける。生徒の実態に応じて枠を増やすことも可能。

・障害の程度にあわせて、課題やレベルが自由に設定できる。

### 教材の使い方（指導方法）

・課題内容とやり方を説明する。
・生徒は指定された（または希望する）枠にボールや硬貨等を入れる。
・課題をクリアした枠には、「○」のできたカードを置いていき、どこまで進んだかをわかりやすく視覚的支援をする。カードを置いたら「ピンポン」という音がする○×棒を使用してできたという気持ちを盛り上げられるようにする。
・生徒の実態に応じて、課題やレベルをかえる。例えば、色のマッチングだけでなく、硬貨の種類分けを行うこともできる。



# 巨大絵本 ポッケのたんぽぽサラダ
## ～登場人物になってお手伝いしよう～

## 対象児童・生徒

・絵本などの簡単な場面展開に、期待感をもって見たり聞いたりすることができる生徒が対象です。

・他者との具体的なやり取りを通じてコミュニケーション力を高めたい生徒に向けた教材です。

S　中１　A②学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

## ねらい

・物語の主人公になってさまざまな「お手伝い」に挑戦する教材です。動物達から感謝されるやり取りを通じて、達成感を感じることや、物語の展開に期待感をもつことがねらいです。

・とても大きな絵本です。
（板段ボール１２枚分）
物語の中に実際に入り込んだように活動できるので、生徒の期待感や意欲が引き出しやすいです。お手伝いを通じて動物達とやり取りすることで、感謝される嬉しさを感じて欲しいと考えました。
・生徒の実態に応じて、場面ごとに「お手伝い（課題）」の内容を変えています。例えば、絵カードと１文字単語を対応させるお手伝いや、操作の困難な生徒でも補助具を使用することで「自分でやった」という実感をもちやすいようなお手伝いを設定しました。

## 教材の使い方（指導方法）

複数の教員で台本に沿って行う。※別紙参照

教員①：動物役（ＭＴ）　教員②：おじいさん役　教員３：ナレーション＆大道具担当

1　ポッケのテーマを歌う。※「歌えバンバン」の替え歌。お手伝いをテーマに歌詞を変えたもの。
2　１場面「おじいさんの家」
3　２場面「アライグマの家」
　→洗濯物を取る手伝い。（洗濯物を取り、動物の持っている容器に入れる課題。）
4　３場面「ウサギの家」
　→手紙を読む手伝い。（絵カードと１文字の単語のマッチングを行う課題。）
5　４場面「アナグマの家」
　→人参やかぶを抜く手伝い。（カブやニンジンを引っ張り、収穫した野菜を容器に入れる課題。）
6　５場面「オオカミの家」
　→タンポポを取る手伝い。（タンポポを取り、動物の持っている容器に入れる課題。）
7　６場面「おじいさんとポッケ」
8　ポッケのテーマを歌う。
　※お手伝いを行った後は、場面毎に動物役の担当が「ありがとう」の歌を歌う。

# 紙芝居台
## ～お話に注目して物語を楽しもう～

### 対象児童・生徒

見通しをもち、活動に取り組むことができる児童集団である。繰り返しの物語には、展開に期待感をもって、楽しむことができる。
緊張の関係もあり、動きのあるものを素早く追視することが難しい児童もおり、紙芝居についても、固定されていることが望ましい。

S　小５　学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

・市販の紙芝居台よりも大きな枠で作成。それにより、自作の画用紙で作成した紙芝居でも、使用することができる。
・紙芝居を支えることのできる柱を付けたことで、読み手の負担を軽減。
・この紙芝居台を使用することにより、児童にとって、見やすさや分かりやすさだけでなく、お話が始まるということを意識し見通しをもって活動に向かうことにもつながった。

### ねらい

注目するべき対象がより分かりやすいようにするために作成。

### 教材の使い方（指導方法）

物語の読み聞かせ等を取り入れた国語・算数の授業の際に使用。

① 紙芝居を紙芝居台にセットする。
② お話のはじまりはじまり～

◆その他のポイント◆
・児童が注目しやすいよう、背景にはブラックボードを使用。
・紙芝居台は、児童の視線と合うように高さを調節。
・児童については、全員の視線の高さが揃うように、グループアセスメントの際に、外部専門家により座位保持椅子の高さを調整済み。

# 首が伸びる妖怪「三つ目」

～昔話「いぐいぐいぐいぐ」より～

## 対象児童・生徒

・絵本に出てくる登場人物と目の前の人形を重ね合わせて考えられる。
・繰り返しのフレーズなど、期待して楽しめる。

S　小５　学習グループ

自立活動を主とする　教育課程

・目玉が三つある「三つ目」。児童が手を伸ばして触ったり、引っ張ったりするので、目玉はピンポン玉にガーゼでかぶせて縫いつけ、丈夫に、作りました。
・口がパクパク動いて、生きているかのように、手を入れて操作ができるようにしました。ぱくっと手を食べられてしまうやりとりも楽しめました。
・入れ物に収納されている首が、長く伸びます。チョッキンと切れる部分は、スナップをつけ、弱い力でもとれるように布をはさみました。

## ねらい

・再現遊びにより、絵本のストーリーの理解を深め、見通しをもったり、楽しい場面を期待する。（絵本の三つ目より、こわくない！と感じる。）
・再現遊びの中で、担任とやり取りしながら、その役のつもりになってあそぶ。

## 教材の使い方（指導方法）

お話を読む

人形とやりとり

再現あそびで、首が伸びて、ばさま役がちょっきん！

原作の絵本は、ちょっと怖いお話でしたが、にくめない表情の「三つ目」人形で、授業はより楽しく！口が動いてぱっくっと手を食られたり、せまってくる「三つ目」、そして絵本と同じのように、しゅるしゅる～と首が伸びる「三つ目」は大人気になりました。「三つ目」とやり取りするむすめ役も、「ちょっきん！」と伸びた首を切ってしまう、ばさま役も楽しく、ごっこ遊びができました。

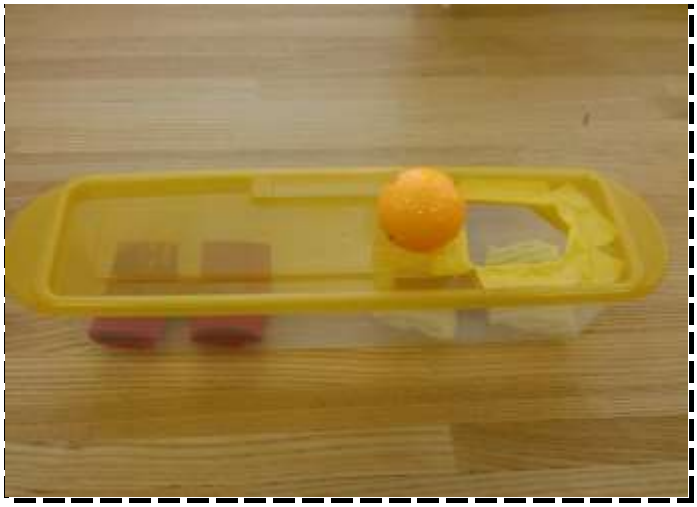
# 二つの音付スライディングボックス
## ～よく見て、手を横に動かす力を育てる～

## 対象児童・生徒

上肢の動きが、主に前後の曲げ伸ばしで中心で、特にひきつける動きが多く、伸ばした状態での動きを獲得することが課題となる児童。
視覚的には、前方30～40㎝のところが見えるくらいの視力がある児童。
異なる音を二つ用意してあるので、聴覚優位な児童に適している。

S　小４　A学習グループ

自立活動を主とする　教育課程



・ゴルフボールは蛍光オレンジの物を使っています。
・視覚よりも聴覚優位な児童のために、良い音の出るグロッケンの板を使ってみました。高音と低音の２種類を左右に配置し、音の違いにも気づいて楽しめるように配慮しました。
・（まだ発展途上の教材です。中が見えなくなってしまいますが、箱の中にグロッケン全体をすっぽり収めてしまう物も製作中です。）

## ねらい

・ボールをよく見て、手で握り、力を抜きながら左右にすべらせる。
・自分で動かしたことがわかり、もう一度やりたい気持ちにさせる。

## 教材の使い方（指導方法）

※操作を右手で行う児童と考えて・・・

・右側に穴が来るように蓋をセット
　手でボールを持ち、その手を左から右に動かしながら穴の上まで滑らせる、放す。
　→低音の音が出る。
　（木製の箱の場合…低音から高音へ１オクターブの音が奏でられる。）

・左側に穴が来るように蓋をセット
　手でボールを持ち、その手を右から左に動かしながら穴の上まで滑らせる、放す。
　→高音の音が出る。
　（木製の箱の場合…高音から低音へ１オクターブの音が奏でられる。）

対象の児童の場合①まず、手を離すと音がすることに気づく
②二つの異なる音が出ていることに気づく。
③手の動きと音の違いの関係に気づく。現在は②の段階まで進んでいます。